

金型の「汎用化」がもたらす プレス加工の段取り改善と経営効果 ～多品種少量・短納期に対応するプレス加工メーカーの挑戦

金型・部品加工業専門コンサルティング 村上英樹*

多品種少量・短納期に対応する 金型のあり方

さて、本特集のテーマは、多品種少量・短納期に対応できるプレス作業の段取り改善ということで、金型・部品加工業専門のコンサルタント（技術）であり、中小企業診断士（経営）・社会保険労務士（労務）でもある筆者の目線で総論を書かせていただく（図1）。

まずプレス作業の段取り効率を徹底的に上げていくために特に金型周辺で取り組むことは、何と言っても、シュートやセンサ類、コイルガイドなどの周辺装置や治具などを徹底して金型ごとに専用部品にしていくことである（図2）。

これにより、金型交換を行うたびに周辺部品や装置の調整作業が不要となり、金型載せ替えから迅速にプレス加工に入ることができる。

かつてシングル段取りなど、極めて短時間で金型を交換する方策は、このような専用部品化によってなされてきた極めて合理的な創意工夫であったと思う。

*（むらかみ ひでき）：代表
〒448-0853 愛知県刈谷市高松町5-85-2
TEL：0566-21-2054 FAX：0566-21-2054

本記事の論点

- ・プレス金型の「汎用化」の必要性と方法
- ・金型の「汎用化」のメリットと、デメリットの解決策
- ・金型の「汎用化」の事例と労務管理の視点

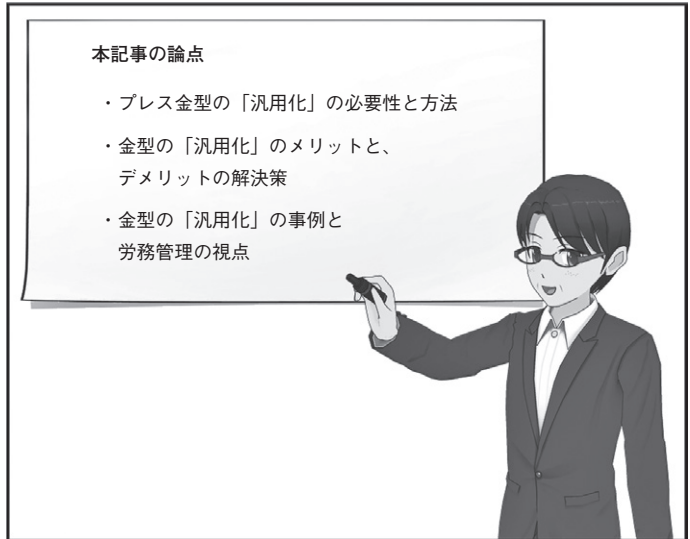


図1 本記事の論点

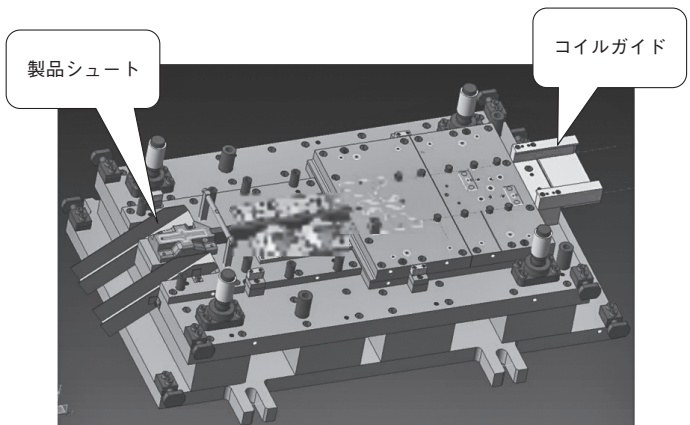


図2 製品シュートとコイルガイドの説明図